

令和6年度 住民懇談会

テーマ 「五所川原市総合計画について」

令和6年10月21日、22日、29日、五所川原・金木・市浦の3地域で住民懇談会を開催しました。懇談会では、将来を見据えた持続可能なまちづくりについて懇談を行ったほか、住民の皆さんから地域の課題等について、さまざまな意見・質問が寄せられました。



金木地域住民懇談会

Q) 総合計画の基本構想に関連し、各年代に対して求める理想の役割のようなものはあるか。一人ひとりができることを実践するに当たって、自分が何をしたいのか、どのような役割を求められているのか、何をやらせたいのか、市の役に立つのかかわからず、行動を起こしにくいという側面もあるのではないかと。

A) 総合計画に掲げる将来像「市民ひとりひとりの『思い』で輝く五所川原」に込めた考え方ですけれども、役割は与えるものではありません。例えば何かイベントを開催した時に、自分の立場であればどんなことができるだろうかといった具合に、一人ひとりの主体性があってこそ、自分たちのまちを自分たちでつくるということにつながっていきます。

地域の住民が、自分たちが暮らす地域を「こんなまちにしたい」という意識を持ち、一人ひとりがさまざまなものに参画することがまちづくりです。年代ではなく、それぞれの立場で参画するということです。

人口減少が進み、担い手が少なくなればなるほど、一人でも多くの地域住民が参画し、できる範囲内で積極的に協力して皆でまちをつかっていくことで、人口減少や高齢化が進んだとしても持続可能な地域ができあがっていくと信じています。

総合計画は、それぞれの立場でできることを考え、主体的に行動に移してもらうための指針として掲げるものです。地域住民との対話を通してその内容を共有し、現実を受け止めながら自分たちが暮らす地域のまちづくりに繋げていくことが、今後5年間の取組です。

市浦地域住民懇談会

Q) 市浦地域のまちづくりに関する青写真が見えてこない。老朽化した施設を廃止・解体していくことは理解できるが、明るい将来像を描けない。福祉施設も同様。宿泊施設も無いから、地域外から人も来ない。史跡や出土品等の有効活用など、さまざまな魅力は有るはず。

A) そのようなご意見を聴きながら、市浦は市浦、金木は金木として将来像を描き、地域の特性を生かした経済の活性化を図りながら将来に向けた基礎・土台づくりを進めていきます。

市浦地域では、イベントの開催を通じて「皆で協力して地域を活性化しよう」という機運が高まっています。これからの市浦地域は、住んでいる人は少なくなくても「人が来れる」ようにつくっていくためには諦めなければなりません。文化・伝統・祭りなど、守るべきものは守りながら、一方で、まちを存続するためには諦めるものは諦める必要があります。次代を担う若い人たちと話し合いながら、地域全体で経済を成り立たせていくことが必要です。町内会の皆さんにも、そのような取組をご支援くださるようお願いいたします。次期総合計画のもとで、経済の活性化とともに、市民に寄り添った福祉の充実を最優先として取り組んでまいります。



このほかにも多くのご意見をいただき、ありがとうございました。懇談会にかかわらず、ご意見・ご要望等がありましたら、担当部署へご相談ください。皆さんからお寄せいただいたご意見を参考に、これからもより良いまちづくりを進めていきます。

▷住民懇談会に関する問い合わせ先…総務課 内線2117

▷五所川原市総合計画に関する問い合わせ先…ふるさと未来戦略課 内線2232

中心市街地の将来像を描きます！ 「中心市街地活性化ビジョン」を策定しました

市では、中心市街地の今後のまちづくりの方向性と将来の姿を示す「五所川原市中心市街地活性化ビジョン」を策定しました。

このビジョンは、市民アンケート結果をまとめた五所川原商工会議所からの要望書の内容などを踏まえて策定し、中心市街地を5つにゾーニングして、各ゾーンにおいて行政が主体となった取組や民間への支援策等を示すことで、民間事業者が開発整備等に参入しやすい環境を整えることなどを盛り込んでいます。

令和7年度から令和11年度までを計画期間とする「五所川原市総合計画」に掲げる各種施策と連動し、今後予定している立俣武多の館のリニューアルを好機と捉え、中心市街地のにぎわいを創出してまいります。

詳細は、市ホームページをご覧ください。

問い合わせ先…都市・交通課 内線2631

五所川原市中心市街地活性化ビジョン

検索



事前に提出された意見等について

Q) 市職員、民生委員、社会福祉協議会等と地域が連携して声掛けや相談対応、見守りを行うことで、高齢者が孤立しないような仕組みづくりが必要だと思ふ。

A) 高齢者の見守りについて、市職員、民生委員、社会福祉協議会の連携をはじめ、町内会などを通じて地域の実情に応じたニーズの把握に努め、地域全体で支え合う持続可能な仕組みを構築してまいります。

担い手不足や資金面の課題に関しては、ボランティア活動の推進や生活支援コーディネーターの活動の拡充を検討しています。

また、市では、地域交流の場を提供することで、隣近所のつながりを深め、高齢者が孤立しない環境を整えるなど、今後も地域全体で協力しながら、見守り活動を推進してまいります。

Q) 町内会の役員など色々苦戦して決めている状況だが、市では、町内会の役員決めなどに関するアドバイスはできないか？

今後の町内会もだんだん変わっていくと思うが、ボランティアで参加してくれる人の確保が難しく、総会などでも集まる人も少なくなっている。各町内会で、工夫している事例があれば紹介をお願いしたい。

A) 近年、市に寄せられる町内会の存続や担い手の確保に関する相談は増加しており、高齢化の進展や社会情勢の変化を背景とした課題の1つとして認識しております。

取組事例の紹介や相談があった際の助言などを行ってまいります。

そのほか「公共施設の改修」「避難所」「側溝の清掃」「除排雪」などについて、ご意見等が寄せられました。

五所川原地域住民懇談会

Q) 総合計画を読んでも、具体的な方針や取組がみえてこない。かつて商都として栄えた五所川原を、工業・農業を中心に、市が再び栄えるようにしてほしい。もっと具体的な話し合いができればと思う。

A) 総合計画は、厳しい現実を示しながらも、悲観するのではなく「ひとりひとりの思い」をどのようにして形にしていくかということで、人口が減少していく中において、市民の皆さん、事業者やさまざまな団体のそれぞれが役割を持って、行政課題を自分ごととして捉え、自分にできることをやり、「皆でまちをつかっていく」という意識を持っていただくことが重要であることを伝えるための計画ですので、どうしても漠然とした表現になってしまいます。

この計画は、4つの柱（基本目標）と13の基本施策、44の具体的な施策で構成されます。

住民懇談会は、計画の構成を説明しながら、令和7年度からの5年間で、どのようにして具体的な取組の中に市民の意見を反映していくかを考えるための場として位置づけています。

さまざまなご意見をいただきながら、最終的に、いかにして次の世代にまできっと残していけるようなまちづくりをするかということ、5年間で具体的にビジョンをつくっていき、2040年に繋げていきたいと考えています。

Q) 少子化・人口流出への対策として、市はどのようなことをしているのか、またはしようとしているのか。町内からは、稼ぐための市の産品のブランド化や観光PR（駅前の活性化、一ツ谷方面からJR五所川原駅へのアクセス改善など、まちづくりに関するさまざまな意見が出ている。

A) 若い世代の人口流出対策については、高校生を対象にした企業紹介の機会を増やす取組や子育て支援に力を入れており、今後も引き続き取り組んでまいります。

企業誘致の伸展・工業団地の充実など、働く場所が無いわけではありませんが、首都圏と当市との賃金格差が大きいことなどが影響し、地元企業での就職を希望する若い人がいないというのが現状で、行政でこの問題を解消することは非常に難しいため、子育てしやすい環境を整えることで、「戻ってきたと思える地域」をつくることを重視しています。

経済面でのブランド化については、十三湖産のヤマトジミ、市浦牛など、地域の特産品をふるさと納税の返礼品としてブランド化して取り扱っています。

一ツ谷方面からの駅へのアクセス改善につきましては、ご意見として承りまして、内部で検討します。